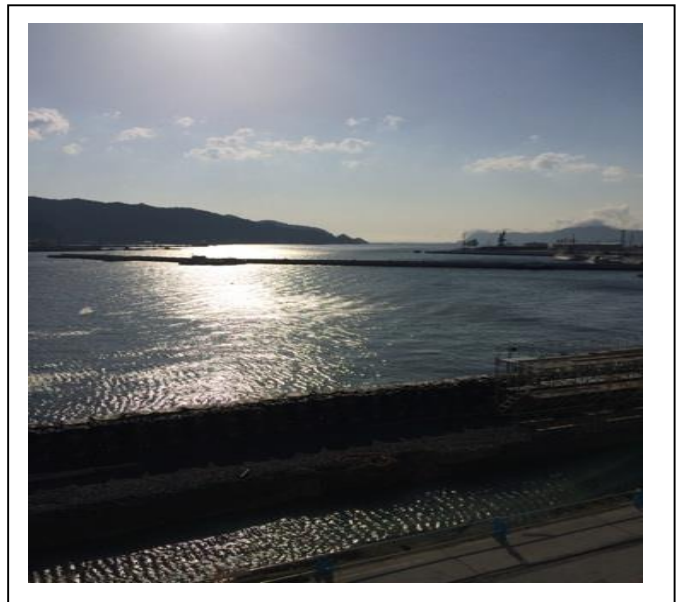
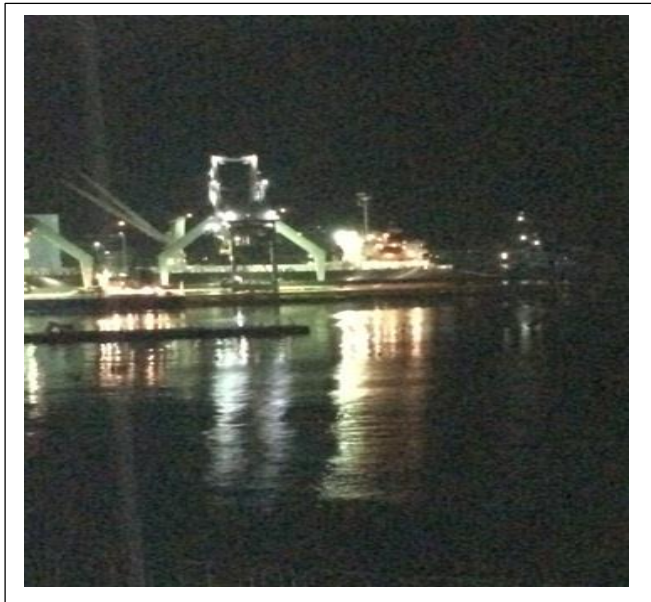


『東日本大震災の被災地を巡る旅路 ～岩手県釜石市から宮城県石巻市までの行程～』

【防災シリーズ vol.5】

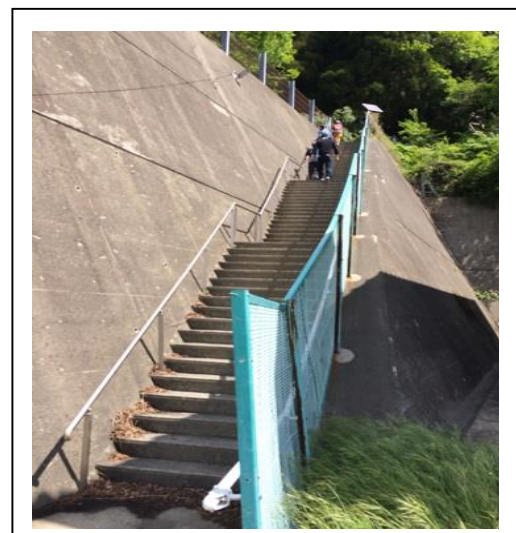
2014年5月15日 (木)

・早朝から関西空港に向かい、日本初の本格的LCC (「ローコストキャリア」格安航空会社のこと)「ピーチ航空」で仙台空港へ向かいました。確か、料金が往復で10,800円ほどでしたね。安すぎます。そして空港から電車で仙台駅に向かい、次いでバスに乗車して宮城県石巻市にある「被災地障がい者センター・石巻」に到着しました。丁度お昼時だったせいか、障害児の母親が2名と事務職員の箕田さんが昼食をとっており、久しぶりの再会だったので1時間程談笑しました。その後、車をお借りして岩手県釜石市に向けて三陸自動車道を乗り継ぎ、国道45号線を北上しました。4時間程で釜石市に到着し釜石港が眺望できる宿舎に到着。この宿舎で今回の被災地巡りをする方々と合流しました。その夜は4人で釜石の居酒屋で祝杯。「どんこ」などの東北でしか味わえない料理を楽しみました。*写真は釜石港の夜と朝の風景です。



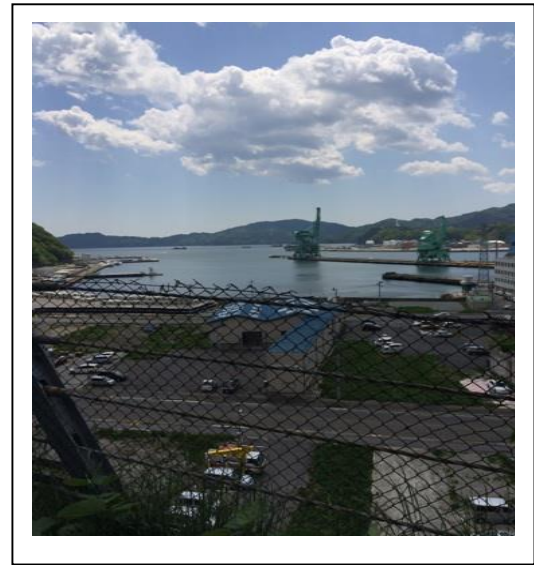
2014年5月16日 (金)

・午前中は「釜石ボランティアガイド会」に予約していた釜石市の歴史や東日本大震災の状況を教えてくれる「語り部」と合流し、車で各所を巡りました。軽快な語り口とは裏腹に震災の甚大なる被害の状況には身に迫るものがありました。そんな深刻なお話とは裏腹に、実際に避難訓練も体験しました (させられました)。*避難訓練の様子と、石階段を必死で駆け上がり避難を体験する4人。



いしかいだん のぼ ぼしよ つなみひなんぼしよ
*石階段を上りきった場所が津波避難場所でした。

み かまいしこう ふうけい
そこから見える釜石港の風景。



ぼしよ かまいしし うのすまい ちく いどう ちく ひさいじょうきょう かた いただ うのすまい
場所を釜石市の「鶴住居」地区に移動し、この地区の被災状況を語って頂きました。この「鶴住居」
ちく ひさいじょうきょう かまいししうのすまい ちく ぼうさい ひがしにほんだいしんさいつなみひさいちょうさほうこくしょ くわ
地区の被災状況については、「釜石市鶴住居地区防災センターにおける東日本大震災津波被災調査報告書」に詳
しくあります。インターネットで閲覧できますので、ご検索してください。

この報告書の冒頭を抜粋した文章を以下に掲載します。

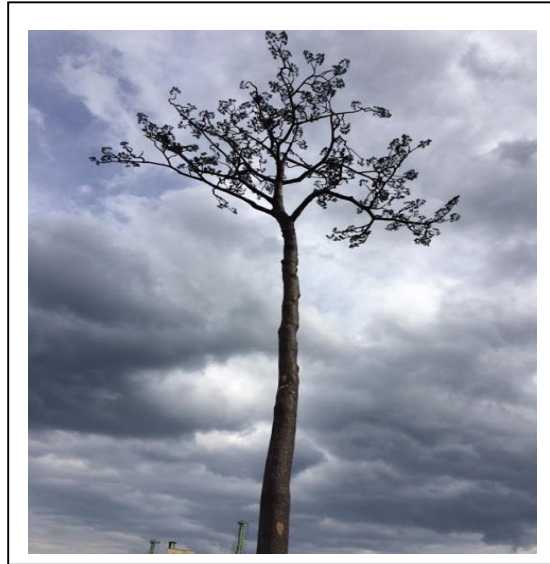
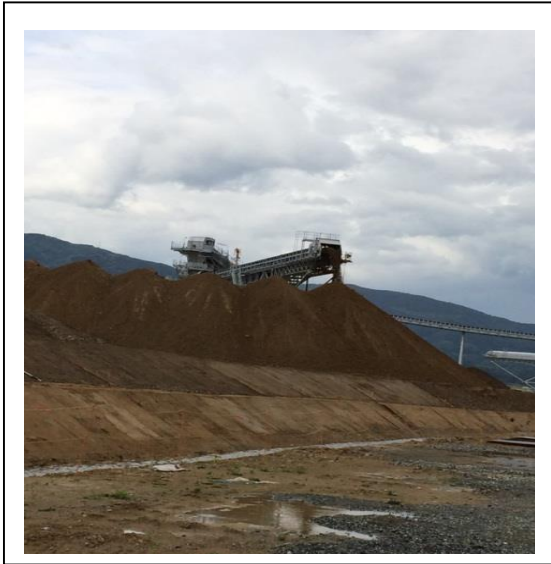
うのすまい ちく ぼうさう ぼうさい ぶんしょう い か けいさい
『鶴住居地区においては、町の中心部に平成22年2月1日に開所した鉄筋2階建ての「釜石市鶴住居地区防災センター
い か ぼうさい りやく たすう しゅうへんじゅうみん ひなん ひさい つなみ かいてんじょうふきん たつ つなみ ひ のち
(以下『防災センター』と略す)』に多数の周辺住民らが避難して被災した。津波は2階天井付近に達し、津波が引いた後、
ないぶ にん せいぞんしゃ きゅうしゅつ にん いたい しゅうよう どうちょうない かいがんせん ちか ぼしよ いち うのすまい
内部から34人の生存者が救出され、69人が遺体で収容された。同町内でより海岸線に近い場所に位置する鶴住居
しょうがっこう かまいしひがしちゅうがっこう じどう せいとやく にん たかだい ひなん つなみ なん のが たいしやうてき けっか
小学校と釜石東中学校にいた児童・生徒約600人が高台に避難して津波の難を逃れたことは対照的な結果となった。
し どうねん がつ か ひさいしや いそく たいしやう かん せつめいかい じっし ぼうさい
市は同年8月9日に被災者の遺族らを対象に「鶴住居地区防災センターに関する説明会」を実施し、防災センターに
ひなん ぎせい かとうせい じゅうみん かず にんぜんご すいてい せいぞんしゃ ぎせいしや いそく
避難して犠牲になった可能性のある住民の数を「100人前後」と推定した。しかし、生存者や犠牲者の遺族らからは
にんいじょう ぼうさい ひなん こえ あ ぼうさい ひなんくんれん さい しやう
「200人以上が防災センターに避難していた」との声が上がった。さらに、防災センターが避難訓練の際に使用されて、
じゅうみん あいだ つなみ ひなんぼしよ にんしき ひろ けいい じんさい してき だ
住民の間に「津波の避難場所」との認識が広がっていた経緯から、「人災」との指摘も出された。』

*今回の「語り部」をしてくれたガイドさん。名前を忘れてしまった。申し訳ない。



午後からは岩手県陸前高田市を目指し、国道45号線を車で南下する。陸前高田市といえば、その被害面積の広大さと「高田の一本松」が有名になった地域である。

*津波の被害が甚大だった沿岸部は現在、10m程の土盛り(かさ上げ)工事がなされています。陸前高田市では山を削った土をベルトコンベアーに乗せ、直接工事現場まで運んでいました。この状況を見て、知人は言いました。「山を潰して土盛り(かさ上げ工事)をする。これって地域を作ってるのか壊してるのか分からないよね?」と。そして右は高田の一本松。

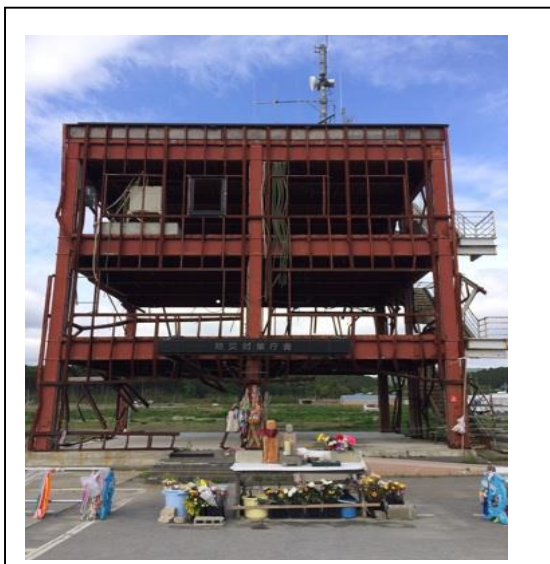


2014年5月17日(土)

宮城県南三陸町で宿をとった私たちは、本日も被災地巡りを敢行しました。

*左が南三陸町の防災庁舎。ここは南三陸町の被害を伝えるモニュメントとなっており、今でも観光バスが押し寄せてガイドの話聞きながら、観光客が犠牲者に哀悼の念を込めて祈りを捧げています。

右が宮城県石巻市にある大川小学校。校庭にいた児童108名中74名と、教職員13名中、校内にいた11名のうち10名が死亡しました。この悲惨な結果は多くの禍根を残し、被害者遺族が石巻市と宮城県に対して裁判を起さざるを得ない状況になっています。





みやぎけんおながわちよう かせつじゅうたく ふつこうじゅうたく
 *宮城県女川町の仮設住宅と復興住宅。
 いっけん かせつじゅうたく ふつこうじゅうたく
 一見、これが仮設住宅や復興住宅のクオリティーなのか!?と目を見やるほどの
 しょうしゃ けんちくぶつ
 瀟洒な建築物になっております。なぜ
 おながわちよう けんちくぶつ けんせつ
 女川町だけがこれほどの建築物を建設で
 りゆう じぶん しら
 きるのか?その理由は・・・ご自分でお調
 べください。

ひさいちめぐ お ひ ごご
 被災地巡りを終えたその日の午後は、
 ひさいちしょう しゃ いしのまき じむしょ
 「被災地障がい者センター・石巻」事務所
 しょうがいしゃ かたがた おやご こんだんかい
 で障害者の方々や親御さんとの懇談会が
 おこな
 行われました。

なか みやぎけんひがしまつしまし しんさいご
 その中でも、宮城県東松島市で、震災後に

しょうがいじ かたがた かっぱつ ちいきふくしかつどう てんかい ほうじん
 障害児の方々と活発な地域福祉活動を展開している NPO法人「なりわい舎」の理事長も来て下さり懇談しまし
 た。様々な活動をしている注目の団体ですので、是非インターネットで検索してみてください。

また、「被災地障がい者センター・石巻」が主催して今年で3年目になる「かんさい☆なう」という企画への
 さんか希望者との面談も行いました。「かんさい☆なう」という企画は、被災した地域、主に石巻市や東松島市、
 みなみさんりくちよう しょうがいしゃ かたがた かんさい まね ちいき じりつ しょうがいしゃ いせん じぎょうしょ こう
 南三陸町の障害者の方々を関西にお招きし、地域で自立している障害者やその支援をしている事業所との交
 流を通じ、将来的に被災地であっても地域で自立するための一つの糧として欲しいとの思いで始めました。
 さんかしゃ じぶん い き ぼしょ いっしょい さまざま けいけん かつどう ふく
 また参加者が自分で行く決めた場所にボランティアヘルパーと一緒にいき、様々な経験をする活動も含まれて
 おります。今年も8月1日(金)から7日(木)まで、石巻市と南三陸町の障害児6名が参加します。これを読ま
 れた方で、是非、ボランティアヘルパーをしてみたい!!という方は当方までご連絡ください。

2014年5月18日(日)

・被災地を巡る旅路の最終日、私以外の3人はそれぞれの住処へと帰宅されました。一人残った私は、とある
 なかまたち ごうりゅう くるま ふたた ごうせん ほくじょう みやぎけんせんぬまし む あ しょうがいしゃ
 仲間達と合流し、車で再び45号線を北上し、宮城県気仙沼市へと向かいました。とても会いたかった障害者
 が居るのです。*以下は私の文章です。引用ではありません。

「震災直後、彼は自宅でお母さんとお婆ちゃん、お兄ちゃんとお姉ちゃん2人の計6人で自宅に居ました。大地震
 の後、大津波警報のサイレンが町中に響き渡りました。その喧騒の中、お母さんは決断しました。全身性障害で
 じんこうこきゅうき ひつよう かれ ひとり ひなん かぞく きょうりょく じかん
 人工呼吸器が必要な彼は一人では避難ができません。家族みんなで協力しても時間がかかってしまうし、いつ
 つなみ おそ ばあ きょうだい にん ひなんじよ ひなん
 津波が襲ってくるのかわかりません。だからお婆ちゃんと兄弟3人は避難所に避難しなさいと。そのような
 ききてきしょうきょう なか おかあ けつだん じたく かれ おかあ ふたり
 危機的状況の中でのお母さんの決断でした。自宅には彼とお母さんの二人きり。
 お母さんは思ったそうです。「この子を一人残して死なせるのは忍びない。せめ
 ははおや わたし こ いっしょい 居てあげることしか出来ない」と。やがてサイレ
 ンは鳴りやみ、津波は自宅を襲うことはありませんでした。しかし大地震の
 えいきょう ちいきぜんたい ていでん じんこうこきゅうき さどう つづ でん
 影響で地域全体が停電をしてしまいました。人工呼吸器を作動し続けるには電
 き ひつよう ひつよう かれ いのち じんこうこきゅうき ざんりょう ひと
 気が必要です。つまり、彼の命は人工呼吸器のバッテリーの残量と等しくなっ
 てしまいました。」

その後、さまざまな苦難や困難を乗り越え、現在も彼は元気に生きております。
 そんな彼に会いに行きました。「川口俊司(通称「けんけん」)くん現在6歳で
 す。また会いに行くよ!!

*右側が「けんけん」。左が心苦しいですが私です。 【文:大菌 拓郎】

